

あ と が き

昨2004年は、社会的にも政治的にも大変な年でありました。

イラク、北朝鮮問題はいまだ解決には遠く、また、夏以降の台風・洪水、9月の中越大地震、年末にはスマトラ沖の大地震による未曾有の大津波と、自然の猛威による大災害がつぎつぎにおこり、多くの尊い命がうばわれ、住む家や暮らしていた地域がうばわれました。被災された多くの方々が、1日も早く立ち直られるよう心からお祈り申し上げます。

今年はどんな年になるのでしょうか。新年度の4月1日からはわれわれ健康支援機関にとっては大きな問題が数多く待ち受けています。

第1には、長年にわたって成果をあげ、世界からも注目され、多くの疾病予防検診のモデルになってきた結核予防法の大改正が施行されます。それに伴って、学校や職域、地域での各種保健事業の見直しが行われることになっています。さらに、健康増進法に基づく健診指針の具体的見直しを行う検討会も立ち上がっています。また、増え続けるがんに対して有効な対策を実施するために、がん検診の見直しも行われています。そのなかで、女性のがん緊急対策として新規にマンモグラフィ緊急整備事業が実施されることになったのは、女性にとって大きな福音になると期待されます。他のがん検診も、今年1年をかけて見直される予定で、検診体制と精度管理がしっかり検討されることになっています。

第2には、やはり4月1日から施行される個人情報保護法と疫学研究に関する倫理指針等が、われわれ健康支援機関にとって追い風になるのか、迎え風になるのか、大変難しい時期に直面しているように思われます。

しかしながら、国も国民も自立した活動的な人生を目指しているのですから、時間がたてば、きっとわれわれのようなNGOの必要性が認識されることは間違いないだろうと考えています。

本年も、遅くなりましたが、「東京都予防医学協会年報 2005年版」をお届けいたします。長年にわたってこの年報制作にあたってくれていた菅原大作君が、定年退職しました。この2005年版年報は、菅原君に替わって本会の全部署の担当者が協力して制作することになり、これを機会に表紙のデザインや本文のレイアウトを変えてみました。また、従来、産業保健、母子保健、地域保健などの分野に分散して掲載していたがん検診を、1つの独立した章としてまとめました。いかがでしょうか、率直なご意見などをいただければ幸甚です。

年報の各項目では、それぞれのご専門の先生にいつもながら質の高い論文や良いコメントを頂戴しました。本会としてはつらい時期ではありますが、これからも学問的で社会的な運動を続けてまいりたく役職員全員協力してがんばるつもりです。なにとぞよろしくご指導、ご協力をお願い申し上げます。

平成17年3月

財団法人 東京都予防医学協会
専務理事 山内 邦 昭